

群馬県議会史

第十一卷

自平成十一年四月 至平成二十三年三月

群馬県議会



議事堂（平成11年～）

議員一同

(平成11年～平成14年)



金子 浩隆	須藤 昭男	久保田順一郎	田所三千男	松本 耕司	真下 誠治	木暮 繁俊	小野里光敏	金田 克次	栗原 章二	金子 一郎	長谷川嘉一	岩井 均	青木 秋夫		
	星野 寛	黒沢 孝行	小島 明人	安樂岡一雄	金子 泰造	岡田 義弘	塚越 紀一	荻原 康二	南波 和憲	亀山 豊文	五十嵐清隆	山本 龍			
腰塚 誠	小林 義康	秋山 一男	大澤 正明	原 富夫	中村 紀雄	庭山 昌	金田 賢司	矢口 昇	山下 勝	金子 賢	早川 昌枝	関根 罔男	中沢 丈一	長崎 博幸	石原 条
菅野 義章	大林 喬任	角田 登	宇津野洋一	柳沢 本次	中村 栄一	岩井賢太郎	時吉 敏郎	松沢 睦	橋爪 和夫	境野 貞夫	田島 雄一	山口 清	高木 政夫		

議員一同

(平成15年～平成18年)



須藤日米代	岩上憲司	橋爪洋介	新井雅博	伊藤祐司	織田沢俊幸	桑原功	平田英勝	大沢幸一	塚原仁	中島篤	狩野浩志	福重隆浩	中島資浩	今井哲
		岩井均	長谷川嘉一	金子一郎	松本耕司	真下誠治	木暮繁俊	小野里光敏	金田克次	田所三千男	久保田順一郎	須藤昭男	金子浩隆	
			星野寛	黒沢孝行	南波和憲	荻原康二	塚越紀一	金子泰造	安樂岡一雄	亀山豊文	五十嵐清隆			
腰塚誠	小林義康	早川昌枝	中村紀雄	大林喬任	田島雄一	松沢睦	大澤正明	関根圀男	角田登	青木秋夫	矢口昇	原富夫	中沢丈一	長崎博幸

議員一同

(平成19年～平成22年)



石川 貴夫	水野 俊雄	須藤 和臣	井田 泉	茂木 英子	星名 建市	久保田 努	関口 茂樹	舘野 英一	萩原 渉	大林 俊一	角倉 邦良	笹川 博義	あべともよ	後藤 克己	後藤 新	塚越 紀一
	岩上 憲司	福重 隆浩	狩野 浩志	織田沢俊幸	塚原 仁	平田 英勝	大沢 幸一	村岡 隆村	中島 篤	新井 雅博	橋爪 洋介	今井 哲				
				金子 浩隆	須藤 昭男	金田 克次	小野里光敏	真下 誠治	久保田順一郎	岩井 均						
	山本 龍	黒沢 孝行	中沢 丈一	原 富夫	田島 雄一	関根 圀男	松本 耕司	中村 紀雄	早川 昌枝	腰塚 誠	南波 和憲					

議 長



第79代議長・第74代副議長
中村紀雄(前橋市)



第76代議長・第69代副議長
岩井賢太郎(富岡市)



第73代議長
大林喬任(北群馬郡)



第80代議長
大澤正明(太田市)



第77代議長・第71代副議長
高木政夫(前橋市)



第74代議長
菅野義章(前橋市)



第81代議長・第78代副議長
中沢丈一(前橋市)



第78代議長・第73代副議長
矢口昇(邑楽郡)



第75代議長
山口清(藤岡市)

議 長



第82代議長
腰塚 誠(桐生市)



第83代議長・第77代副議長
原 富夫(伊勢崎市)



第84代議長・第79代副議長
関根 圀男(高崎市)

副 議 長



第83代副議長
松本 耕 司(館林市)



第80代副議長
五十嵐清隆(伊勢崎市)



第72代副議長
金田 賢 司(佐波郡)



第81代副議長
小野里光敏(利根郡)



第75代副議長
時 吉 敏 郎(高崎市)



第82代副議長
金田 克 次(太田市)



第76代副議長
秋山 一 男(太田市)

議 員



井 田 泉
(佐波郡)



石 川 貴 夫
(高崎市)



青 木 秋 夫
(勢多郡)



伊 藤 祐 司
(高崎市)



石 関 貴 史
(伊勢崎市)



あ べ と も よ
(太田市)



今 井 哲
(富岡市)



石 原 条
(山田郡)



新 井 雅 博
(藤岡市)

議 員



萩原 康二
(多野郡)



大沢 幸一
(桐生市)



岩井 均
(安中市)



織田沢 俊幸
(甘楽郡)



大林 俊一
(北群馬郡)



岩上 憲司
(前橋市)



角倉 邦良
(高崎市)



岡田 義弘
(安中市)



宇津野 洋一
(高崎市)

議 員



久保田 順一郎
(邑楽郡)



金子 浩隆
(沼田市)



金子 一郎
(勢多郡)



久保田 努
(伊勢崎市)



狩野 浩志
(前橋市)



金子 賢
(桐生市)



栗原 章二
(伊勢崎市)



亀山 豊文
(桐生市)



金子 泰造
(前橋市)

議 員



小林 義 康
(高崎市)



小 島 明 人
(前橋市)



黒 沢 孝 行
(太田市)



境 野 貞 夫
(桐生市)



後 藤 新
(前橋市)



桑 原 功
(前橋市)



笹 川 博 義
(太田市)



後 藤 克 己
(高崎市)



木 暮 繁 俊
(群馬郡)

議 員



田 所 三千男
(藤岡市)



関 口 茂 樹
(藤岡市)



須 藤 昭 男
(みどり市)



塚 越 紀 一
(伊勢崎市)



田 島 雄 一
(伊勢崎市)



須 藤 和 臣
(館林市)



塚 原 仁
(邑楽郡)



館 野 英 一
(邑楽郡)



須 藤 日米代
(みどり市)

議 員



庭 山 昌
(高崎市)



中 島 資 浩
(前橋市)



角 田 登
(勢多郡)



萩 原 涉
(吾妻郡)



中 村 栄 一
(甘楽郡)



長 崎 博 幸
(高崎市)



橋 爪 和 夫
(高崎市)



南 波 和 憲
(吾妻郡)



中 島 篤
(高崎市)

議 員



星野 寛
(利根郡)



平田 英勝
(高崎市)



橋爪 洋介
(高崎市)



星野 已喜雄
(沼田市)



福重 隆浩
(高崎市)



長谷川 嘉一
(太田市)



真下 誠治
(渋川市)



星名 建市
(渋川市)



早川 昌枝
(前橋市)

議 員



山下 勝
(邑楽郡)



茂木 英子
(安中市)



松沢 睦
(高崎市)



山本 龍
(前橋市)



安楽岡 一雄
(館林市)



水野 俊雄
(前橋市)



吉川 真由美
(前橋市)



柳沢 本次
(群馬郡)



村岡 隆村
(桐生市)

知 事



公選第15代・第16代
小 寺 弘 之



公選第17代
大 澤 正 明

序

群馬県議会史の公刊も既に第十巻を数え、このたび、第十一巻を発行するに至ったことは、誠に意義深く、同慶に堪えないところである。

第十一巻の収録は、平成十一年四月から平成二十三年三月の間、議員の任期で三期十二年における県議会の歴史を記録している。

この時代を振り返れば、まず、平成十一年には、新たな県議会議事堂が完成し利用が開始され、とともに、桐生第一高等学校が県勢で初めて全国高等学校野球選手権大会制覇の偉業を達成した。平成十三年には、米国で同時多発テロ事件が発生し、全世界に大きな衝撃を与えた。平成十五年からは、いわゆる「平成の大合併」が進み、平成二十二年には県内市町村は半数の三十五市町村となった。

また、平成二十一年には「民主党政権」が誕生し、八ッ場ダム建設工事が一時中断されることとなった。さらに、平成二十三年には、未曾有の大災害である「東日本大震災」が発生し、多くの尊い人命が失われるとともに、日本各地に甚大な被害をもたらした。

この間、平成十九年には大澤正明氏が知事に初当選し、新たに「大沢県政」がスタートを切った。また、同年には、福田康夫氏が本県から四人目となる内閣総理大臣に就任し、その喜びを二百万県民とともに分かち合った。

このような激動の時代にあつて、医療・福祉、環境、農林業、産業、県土整備、教育、文化など、県政のあらゆる分野において、県民生活の向上や郷土群馬県の進展と県土の均衡ある発展のために県議会が果たしてきた役割は非常に大きかったと感じている。

本書には、こうした中で、県政発展に尽力された往年の先輩議員や同僚議員のさまざまな活動が、県政の動向とともに記録されており、これを長く後世に伝えることで、郷土の輝かしい未来を築いてゆくための貴重な資料となることを願うものである。

終わりに、「群馬県議会会史第十一巻」の編さんに関係した多くの皆様方の御労苦に対し、深甚なる謝意を表するとともに、群馬県のますますの発展を祈念して発行のことばとする。

令和三年三月三十一日

群馬県議会議長 萩原 渉

凡 例

- 一 第十一巻は、平成十一年四月から平成二十三年三月までの三期十二年間を収録した。
- 一 第十巻に準じて編纂した。
- 一 資料は、すべて群馬県議会図書室所蔵のものを使用した。
- 一 議員の顔写真の配列はアイウエオ順とし、議長、副議長、議員の重複掲載を避けた。
- 一 制度の改変については、新たに制定された主な法律と条例のほかは、地方自治法の一部改正の掲載にとどめた。
- 一 紙幅の関係ですべての質問・答弁を掲載することができないため、党派別質問者数、議員個々の質問回数、質問項目などを総合的に検討して、会議録から抜粋した。
- 一 提出された議案の表題はすべて掲載し、委員長報告は選択して掲載した。
- 一 敬称は原則として省略した。